

県立図書館で調べよう

新潟県の古地図

「寛治図」・「康平図」から近代まで

新潟県（越後・佐渡）は、古くは「寛治図」・「康平図」に始まり（同地図の真偽について一部議論があります）、近代に至るまで多くの地図に描かれてきました。これらの地図には、古い村名や町から町までの里程、官公署の場所、名所など様々な情報が記載されています。同冊子ではこれらの地図を、年代別などにご紹介しています。

古い新潟町の絵地図については、別冊子「県立図書館でしらべよう 明治～戦前のにいがたの街並みを調べる」をご覧ください。



「往昔越後之図」（「寛治図」系統）

（新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より）

新潟県立図書館

目次

1	古代～中世の地図を調べる	1
2	近世の地図を調べる	2
3	近代の地図を調べる	6
4	佐渡の地図を調べる	10

凡例

『 』内は図書または雑誌のタイトル。()内カタカナはタイトルの読み。

「 」内は論文のタイトル。

タイトルの後は、版・巻次、著編者、出版社、出版年、当館請求記号。請求記号は[]内に記入。

※請求記号の後に「デジタル化済」とある資料は、当館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」に掲載されています。資料保存のため、原則として現物の閲覧ができません。

資料には館外貸出できない資料もあります。貸出の可否は、蔵書検索の「持禁区分」で確認してください。「持禁区分」に「禁帯出」とあるものは、館外貸出できません。

閲覧の際に申請が必要な資料もあります。閲覧希望の際は、調査相談窓口で申請してください。また、一部複写のできない資料もあります。

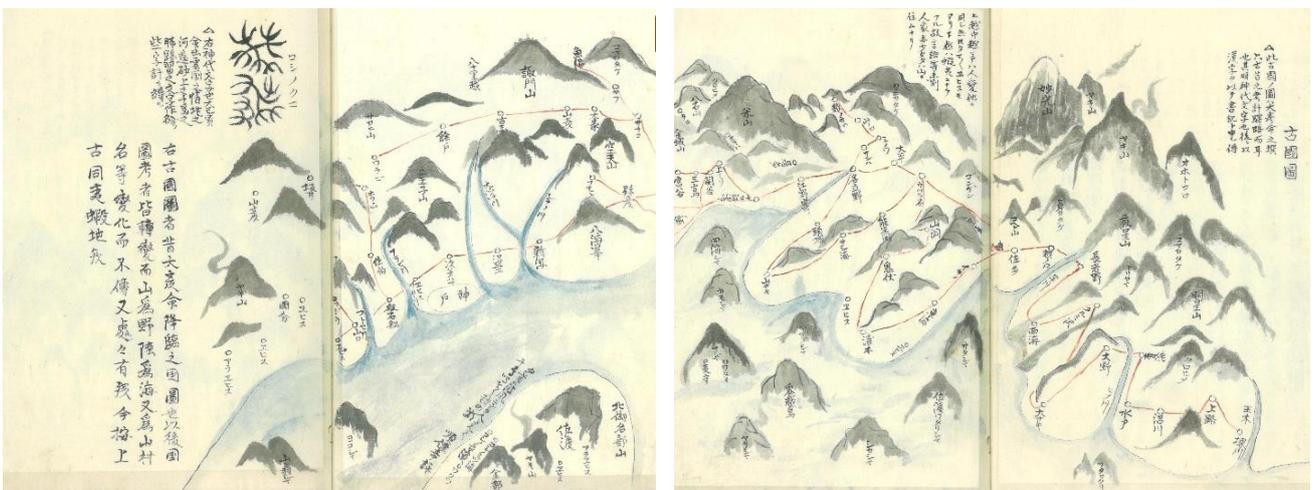
地形図などのデータベース化していない資料は、当館ホームページ及び閲覧室内の検索端末で検索してもヒットしません。利用の際は、調査相談窓口へ請求してください。

1 古代～中世の地図を調べる

古代の越後国（新潟県）を描いた地図として「康平図」と「寛治図」が挙げられます。ただし、現存する地図は全て模写であり、同地図の真偽については過去に論争も起こっています。『平安越後古図集成』堀健彦／編 新潟大学「大域的文化的システムの再構築に関する資料学的研究」 2008 [N2*00/H87]には、これらの古地図の写真が掲載されています。また、「康平図」「寛治図」及びその真偽に関する論争についての資料は、別冊子「県立図書館でしらべよう 新潟県のこと」内「古代地図（康平図・寛治図）とその論争について調べる」の項をご覧ください。

そのほか、『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』第7輯 新潟県／編 新潟県 1937 [N290/N72/7]の「第四章 越佐古代地図」の項では、「康平図」「寛治図」のほかに越後国の古代地図として「北越風土記」所載の「永祚元年八月十三日前 越佐古図」についても言及されています（ただし、同地図の信ぴょう性については否定的です）。当館では「北越風土記」は所蔵していませんが、『北越風土記節解』巻1上 丸山元純／編 書写者不明 書写年不明 [000/55ニ] デジタル化済を所蔵しており、同書には古地図が掲載されています。

なお、中世（鎌倉時代～室町時代）における越後国の地図は、調査した限り見つかっていません。



『北越風土記節解』巻1上(古国図の箇所)

(新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

2 近世の地図を調べる

近世（安土桃山時代～江戸時代）における越後国の地図として、豊臣秀吉が作成を命じた郡絵図、幕府が諸藩に作成を命じた国絵図、武士や商人が作成した絵図が挙げられます。

郡絵図

天正期に豊臣秀吉が作成を命じた郡絵図は現存しておらず、その模写と考えられている「越後国瀬波郡絵図」と「越後国頸城郡絵図」が残るのみです。

同絵図の大型のレプリカとして『越後国郡絵図』第1頸城郡，第2瀬波郡（東京大学史料編纂所／編 東京大学 1983，1985）[N290／162／1，2]が挙げられます。また『越後国郡絵図』東京大学史料編纂所／編 東京 東京大学 1987 [N29*0／T046／3]に釈文と村名の索引が掲載されています。

そのほか『上越市史』別編2 上杉氏文書集2 上越市史編さん委員会／編 上越市 2004 [N2*32／J59／B-2]にも、両絵図のレプリカが付されています。

幕府が作成を命じた国絵図

江戸時代、幕府の命により、諸藩で国絵図が作成されました。これらの原本は、天保期に作られたものを除き、ほとんど現存していません。ただし、それらを模写したものはいくつか当館で所蔵しています。これらの地図に示されているのは主に村名や村高、各郡の領域などです。

なお、これらの国絵図の作成過程や特徴については、『国絵図の世界』国絵図研究会／編 柏書房 2005 [291／Ku43]に詳しく記載されています。

また、天保期に作られた国絵図の原図は、国立公文書館で所蔵しており、同館ホームページ内デジタルアーカイブ⇒重要文化財（国絵図等）⇒「天保国絵図」

[<https://www.digital.archives.go.jp/DAS/pickup/view/category/categoryArchives/0300000000/0303000000/00>] からデジタル画

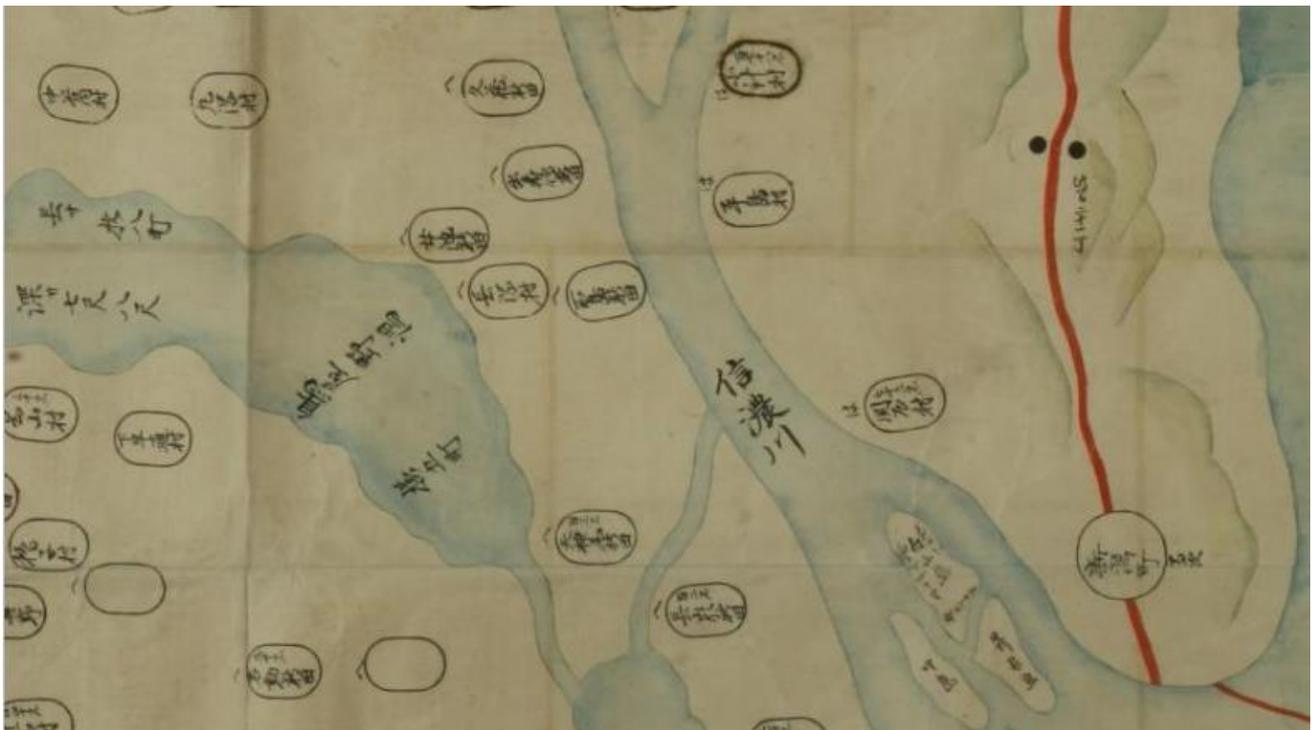
像にてご覧いただけます。

・『日本六十余州図 寛永十年巡見使国絵図』川村博忠／編 柏書房
2002 [R291/Ka95]

寛永10年(1633)に江戸幕府から派遣された巡見使を通じて幕府に納められた国絵図の写本が収録されています(p36「越後国」、p37「佐渡国」)。地名は主だったもののみ掲載されています。

・『越後国全図』1・2 正保2(1645)成立、明治19(1886)写[請求記号無し]デジタル化済

正保2年(1645)に幕府の命により、新発田藩が作成したものの写しを、明治19年(1886)に再写したものです。1は岩船郡から長岡辺りまで、2は三島郡から糸魚川付近までの範囲が掲載されています。両者を比較すると、色合いなどが異なります。



「越後国全図」(鳥屋野潟付近)

(新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

・『正保二年越後絵図』三扶誠五郎／複製 新発田郷土研究社 1936 [000/別48] デジタル化済

溝口家の旧蔵の地図を復刻したものです。上記『越後国全図』に類似しており、同地図と比べると色鮮やかで文字が見やすく、同地

図で空白になっていた村名も埋められています。

・『正保越後絵図』乾・坤 江戸期 [000/378] デジタル化済
正保4年に幕府の命により、高田藩が調製したものとされています。乾（おおよそ岩船郡～蒲原郡の地域）と坤（おおよそ古志郡～頸城郡の地域）の2枚があります。

・『元禄十三年越後国蒲原郡岩船郡絵図』新発田古地図等刊行会 1978 [NM210/G34] デジタル化済
元禄時代に幕府が新発田藩に作成させた国絵図の控図（新発田市立図書館蔵）を複製したものです。描かれているのは蒲原郡と岩船郡のみです。

・『越後国頸城苅羽魚沼古志三嶋郡絵図』[1]～[11] 天保年間成立 [請求記号無し] デジタル化済
天保年間に作られた越後国絵図の控図です。明治期に旧高田藩主から当時の新潟県令宛に贈られました。

・『伊能図大全』第2巻 [伊能 忠敬/著], 渡辺 一郎/監修 河出書房新社 2018 [N291/I55/2]
江戸幕府が伊能忠敬に作製させた「大日本沿海輿地全図」（通称「伊能図」）のうち、関東・甲信越部分の各図が掲載されています。

武士、商人たちが作成した絵図

江戸時代後半になると、武士や商人たちによって作成された越後国の絵図も刊行されるようになりました。これらの絵図は、寺社や名所などの情報が記載されているものが多いのが特徴です。

・『越後国全図 [1]～[4] (改正越後国佐渡国全図並附録)』三輪長泰/撰 三輪長泰 享和2 (1802) 写 [000/別50]
幕府が元禄年間に諸藩に作らせた国絵図の誤りを修正し、改訂したものとされています。

また、『三輪長泰『改正越後国佐渡国全図並付録』三輪長泰/[著], 堀健彦/編 新潟大学「大域的文化システムの再構築に関する資料学的研究」プロジェクト 2007 [N2*00/H87] に同絵

図の付録の地誌を翻刻したものや図絵などが掲載されています。

・『越後全図並佐洲図』小泉其明／著 佐幸吉 文化14(1817)
刊 [000/5コ] デジタル化済

古城や名所、寺社などが記載されています。作者の小泉其明は蒲原郡今町（現見附市）の人です。

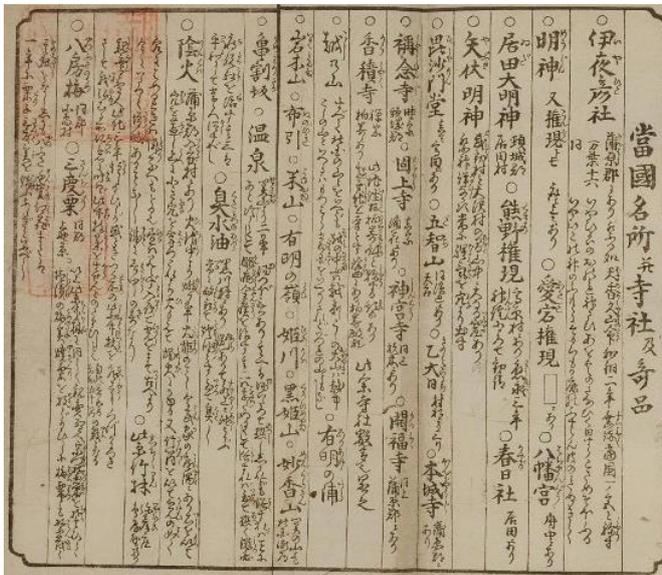
・『越後輿地全図 [1] ~ [5]』草間文績（笹川屋伊七）／編 文政元(1818) 写 [000/別49]

駅路や渡し場、名所などが記載されています。作者の草間文績は新潟町の人です。

・『越後国細見大絵図』池田東籬亭／著 近江屋佐太郎 天保13 [000/4] デジタル化済

越後国内の大名や名所、奇品など複数の情報が記載されています。

また、『新潟県の今昔 越後国細見図』人文社 2004 [291.4/N72] には、同絵図のレプリカが収録されています。



「越後国細見大絵図」
(当国名所并寺社及奇品の箇所)
(新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

・『北越名所旧跡奇物名産地理案内之全図』雀翁 慶応4年刊 [NM200/H82] デジタル化済

「怪異七寄」「名産七奇」などの7種類の七不思議の場所を地図上に示しています。

なお、同地図に示されている各七不思議の内容については、『七つの越後七不思議』鶴巻武則／著 新潟県民俗学会 2013 [N388/Ts85] で解説されています。

3 近代の地図を調べる

明治～昭和期に作成された新潟県の地図として、以下のものを所蔵しています。

・『新潟県管内越後国全図』 帰山常吉／編 荒川才二 明治8年〔000／2〕 デジタル化済

・『新潟県下越後国全図（内題「新潟県管内越後国全図」）』 明治年間〔000／2〕 デジタル化済

大区小区の境界や神社、温泉地などが掲載されています。

また、『新潟県史』資料編第13 新潟県／編 新潟県 1980〔N2*00／N724／S-13〕に類似図（若干の差異があります）のレプリカが付録として付いています。

・『改正越後国全図』 小林清親／編 小林清親 明治9（1876）刊〔NM200／K012〕 デジタル化済

明治5年（1872）9月に施行された大区小区制に基づき、大区毎に色分けがされています。また、寺社や温泉地なども示されています。



「改正越後国全図」（現在の新潟市中央区近辺）
（新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より）

・『新潟県越後佐渡両国図管内図（新潟県下越後佐渡両国図）』〔明治期〕〔000／89〕デジタル化済

明治12年（1879）4月、本県において実施された郡区町村編制法の前と後の各郡の境界などが色付きで示されています。ただし、東・西魚沼郡や南頸城郡といった、実際には使用されなかった郡名も記されています。

・『新潟県管内実測図』栗林佐一郎／編 小林二郎 明治14年〔000／90〕デジタル化済

郡界などが示されています。そのほかに、新潟、長岡、高田、三条、新発田、村上の各市街図、管内各駅里程表、市街地之内町名表、分合村改称村名表などが付されています。

・『新潟県管内国県道里程実測図 全』新潟県／編 明治21年〔000／93〕デジタル化済

主な地名と町村同士の里程が記載されています。また、里程表が付されています。



「新潟県管内国県道里程実測図 全」
（現在の新潟市中央区近辺）
（新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より）

・『新潟県管内新独立町村区画全図』永井独楽造／編 井筒駒吉他 明治22年（1889）〔NM200／N14〕デジタル化済

・『新潟県市町村自治区域新旧町村全図』永井独楽造／編 松田周平 明治28年（1895）〔NM200／N14〕デジタル化済

両地図とも、郡界、町村界などが示されています。また、町村間の里程を示した地図も付されています。

・『新潟県市町村自治区域新旧町村全図』永井独楽造／著 松田周平
1891 [N29*0/N14]

広げると1枚ものの地図（新潟県全域）になります。地名や道路のほか、鉄道や船の里程、道筋なども示されています。

・『学校用新潟県管内地図』高橋有吉／著 勉強館 1891 [N290/Ta33]

各郡の地図が掲載されており、地図上には油井や温泉などのほか、おおまかな村界が示されています。

・『分郡精確新潟県地図』内田嘉一／編 松風堂書房 1895 [N290/U14]

県内複数地域の地図が掲載されており、郡ごとに色付けされています。主な地名や油井、鉱山などが示されています。また、巻末に新潟、新発田、長岡、高城村・高田町の市街図が掲載されています。

・『新潟県新町村改正明細全図』小山恒之助／編 桜井産作 1900 [000/92] デジタル化済

郡界、町村界などが示されています。また、新潟、長岡、高田、三条、新発田、村上の各市街図が付されています。

・『官民必携新潟県下郡別各町村間里程地図』新潟県／編 青木佐太郎 1901 [N290/N72]

各郡の里程地図が掲載されています。また、「新潟市之図」及び鉄道や船の里程も示されています。

・『新潟県管内全図』後藤常太郎／著 中村由松 明治38（1905）[NM200/G72] デジタル化済

分県地図の草分けとされる「大日本管轄分地図」内新潟県の部分で、町村名や地誌（裏面）などが記載されています。新潟市と三条町の市街図及び里程図も掲載されています。

また、『三都市，四十三県，三府一庁大日本管轄分地図』日本地図選集刊行委員会／編 人文社 1968 [R291/D25] にも同地図が掲載されています（若干の差異があります）。

・『新潟県改正管内新町村図』 小林二郎／著 精華堂 1906 [N290/K012]

冊子体で、各郡の地図（1枚もの。A4サイズ）が複数収録されています。県内各地域同士の里程が示されています。また、「新潟市全図」もあり、そちらには主な施設や町名などが記載されています。

・『旅行地図 新潟県之部』 佐藤新次郎 交通社 1910 [NM200/Sa85] デジタル化済

郡界や里程などが示されています。また、新潟、長岡、高田、直江津、三条、村松、新発田、村上の各市街図、時刻表が付されています。

上り列車時刻表							
午後		午前	驛名	午後		午前	驛名
(三等)	八、五、一、一、八、五	一、八、五		宮内發	(三等賃金)	八、六、二、〇、七、五	
五錢	五、〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇、〇			〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、四、五	
	三、三、三、〇、〇、七				五、〇、〇、〇、五、〇		
			來迎寺發				沼垂發
八錢	九、五、一、一、八、五	一、八、五			八、六、二、〇、七、五	一、七、五	
	〇、〇、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇、〇、〇			一、一、一、二、五、九	三、五、九	
	九、八、八、七、三、五				三、一、六、〇、七、六		三錢

「旅行地図 新潟県之部」
 (時刻表の箇所)
 (新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

・『新潟県管内里程地図』 高橋鋭二／編 高橋活版部 1934 [000/389]

・『新潟県管内里程地図』 新潟印刷出版株式会社／編 新潟印刷出版株式会社 1941 [N290/N72]

冊子体で、両資料とも綴じこみの地図が複数掲載されており、県内各地域同士の距離が里程（〇里）と料程（〇キロメートル）で示されています。

4 佐渡の地図を調べる

佐渡単体の地図として、以下のものを所蔵しています。なお、1～3で紹介してきた地図の中にも佐渡島が含まれているものもあります。

・『佐渡国全図（改正越後国佐渡国全図並附録）』三輪長泰／撰 三輪長泰 享和2（1802）写〔000／別50〕

幕府が元禄年間に諸藩に作らせた国絵図の誤りを修正し、改訂したものとされています。

・『佐渡国全図』阿川義広／編 文政11（1828）写〔000／6〕デジタル化済

寛政12年（1800）に佐渡に到着した伊勢国出身の阿川義広が、画家に命じて作製させたものです。海路なども示されています。

・『佐渡国全図』作者等不明〔000／105〕デジタル化済

「天保四年癸亥念九月写之、大久保氏所持」と記述があります。また、海路が細かく示されています。

・『佐渡全図』小泉其明／編 本間善平 明治9（1876）刊〔000／5〕デジタル化済

天保年間に作製された図を縮写して刊行したものです。「船路図」も付いています。原版主の本間善平は小泉其明の孫です。

・『〔新潟県下〕各警察署管内全図〔第16〕相川警察署管内全図（相川警察署部内全図） 佐渡』新潟県警察本部／編 新潟県警察本部 明治年間〔000／88〕デジタル化済

相川警察署の管内をあらわしたもので、警察署や分署の場所も記されています。また、「雑太郡相川市街外三ヶ村之図」が付されています。

・『自治区別改正佐渡全図』山本藤右衛門／編 山本藤右衛門 明治35（1902）刊〔NM240／Y31〕デジタル化済

佐渡全図を自治区別に色分けし、集落名や町村役場位置などが記載されています。また、新潟よりの航路図と2万5千分の一の縮尺

の相川町図が掲載されており、地図の周囲には佐渡の名所や港、学校などが描かれています。

・『佐渡一国山水図』佐渡文海／写 木原商店 明治43(1910)
刊 [000/130] デジタル化済

越後側からみた佐渡を描いた鳥瞰図です。立体的に描かれ、町並みや湊の様子もわかります。なお、作者の佐渡文海は佐渡奉行所の絵図師です。

・『佐渡が島』[吉田初三郎] 佐渡商船株式会社 昭和5(1930)[N29*4/Sa12] デジタル化済

佐渡の名所などが描かれた鳥瞰図です。裏面に観光情報が記載されています。



『佐渡が島』

(新潟県立図書館ホームページ内「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

令和3年3月

新潟県立図書館 作成

新潟市中央区女池南3-1-2

TEL 025-284-6001 (代表)

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>